

第 335 回 昭和の森 自然観察会

タネの旅

玉川弘幸（千葉市）

日 時：2019 年 11 月 10 日（日）13:00～15:00 天候：晴れ

参加者：16 名（大人 11 名、子ども 5 名） 指導員 11 名 緑地事務所 1 名 計 28 名

担当指導員：晝間初枝・玉川弘幸

3度の大きな台風に見舞われ、まだ、そこここに倒木・崩落などの爪痕の残る昭和の森で自然観察会が行われた。

今回のテーマは「タネの旅」。受付を済ませた参加者達には、事前に用意しておいた、今日出会えるだろう“タネのサンプル”を展示し、観てもらうようにした。

まず、参加者を2班に分け、配布した資料に沿って、タネがどのような旅に出るか、タネを運ぶ工夫や仕組みを簡単に説明した上でコースに出た。観察の手始めとして、イヌシデをチェック。枝先に垂れる、葉のように見える苞の間にタネを発見。空に向けて投げると回転しながら落ちて来る。一目で風散布とわかる。冒険広場では群生しているオオバコを観察。この草は靴やダイヤなどに踏まれると、実の中のタネを出し、濡れるとゼリー状になり、物に貼りついてあちこちに運ばれる。早速実験してみたが、結果は少しべたつく程度でした。モミジ広場に向かう途中の道端では、チヂミザサ、イノコヅチ、ヤブミョウガ、キツネノマゴ(付着・動物散布)などを観察。カタバミの実(自動散布)は熟しておらず弾き飛ばなかった。モミジ広場では、子ども達がモミジの種を飛ばして遊んだり、スギぼっくり?の付いた枯れ枝を振って、中の種がこぼれ出るのを楽しんでいた(風散布)。すべり台脇から見えるゴンズイの赤く裂けた実と黒いタネのコントラストが印象的だ。キブシの枝に吊り下がっている赤いカラスウリを見て、サンプルのカラスウリの実を忘れたことに気が付いたが後の祭り。参加者にカラスウリの実の中を見せられず残念。そう思いつつシャクナゲの道に向かった。途中、道の左右にカラムシやミズヒキ、藪の中からは赤い実をつけたマムシグサが顔を覗かせていた。シャクナゲの道やツツジ園では“返り咲き”というのでしょうか、シャクナゲやツツジが花を咲かせていました。ツツジの枝に蔓をからませている、アオツツラフジを見つけた。ブドウに似た青い実を潰して種を出し、参加者に何に見えますかとの質問に、アンモナイトという返事が即返ってきた。紅葉したドウダンツツジやニシキギの植込みの傍では、メリケンカルガヤ、チカラシバ、などを観てどんな旅立ちをするのか皆で確認しあった。広場のケヤキの下ではタネの採取にトライ。大人も子供も指導員も真剣そのものだ。子供たちは目を皿のようにし、一番先にタネを見つけた。最後の目的地の市町村の森。このタネ何に見えるかな！でカシワ、クヌギ、イチョウ等の木の下で実生苗を探した。子供達が殻斗の付いたドングリを夢中で探している姿が微笑ましい。ここで全ての観察を終えてスタート地点の東屋に向かった。

私自身、この観察会で草木の「実とタネ」の楽しさを知りました。



ケヤキのタネさがし